

令和7年度学校経営方針

「一人一人を大切にする学校」

人間関係を形成する力、社会に参画する力、自己実現する力を身に付けさせるため、様々な体験を通して生徒を鍛え、自信をもたせる。

地域に開かれた学校、地域と共に生徒を成長させる学校を目指す。



令和 7 年 4 月 1 日
小平市立花小金井南中学校
校長 荒木 忍

1 はじめに

小平市立花小金井南中学校は、家庭、地域の愛情と尽力、そして多くの教職員の教育に捧げる熱意と献身的な職務姿勢により、開校以来、多数の生徒の成長を支えてきた。令和6年度からはコロナ禍以前の教育活動を取り戻し、生徒の活気ある学校生活が実現できたと聞く。

現在は令和4、5年度の研究で取り組んできた「主体的に学習に取り組む生徒の育成」の研究成果を継続しつつ、ICTのさらなる利活用が求められている。本研究の成果である教職員が学年や教科を越えて意見を交換したり、教えあったり、授業を観察しあったりする関係をなくさないようにしたい。

さらには、持続可能で質の良い教育を継続するためにスクールサポートスタッフや副校長補佐等、教員以外の職員の活用をさらに進めていきたい。令和5年度より、学校運営協議会を設置する学校（コミュニティ・スクール）に移行した。地域と共にある学校として学校運営協議会の組織や運営を進め、小中連携の視点も合わせて、地域のコミュニティの中心として本校が拠点となるように地域の協力者の方と教職員が力を合わせて形をつくっていきたい。

2 学校経営の基本的な理念

学校経営の目的は、教育目標の達成であることは前校長の述べてきたとおりである。本校は教職員の惜しみない努力により東京都や小平市の教育施策、学校の教育目標を具現化し、生徒が大きく成長するとともに保護者や地域の信頼を得てきた。一方で、第4期教育振興基本計画（令和5年6月16日 文部科学省）等に記載された学校における「ウェルビーイング」を実現するには、「生徒ファースト（第一）」ではなく「生徒センター（中心）」とすることが大切だと考える。生徒のため、学校のためであればと労を惜しまない教職員のマンパワーに頼ることなく、家庭、地域、そして生徒とともに大きな「チーム花小金井南中学校」としての学校づくりに尽力していきたい。そのためには、まずは学校内の教職員の和と風通しのよい人間関係をこれまで以上に大切にし、ハラスメントを絶対に許さない職場環境をつくっていく。

「よい学校」とは、「信頼される学校」であり、家庭や地域の学校に対する信頼の基盤は、在学する我が子が日々の登校を喜び、先生や友と親しみ、「わかった」「できた」と学習に満足感を見いだす時に生まれるものである。そして我々の一人一人の生徒に注ぐ愛情が保護者の感謝と協力を生む。そこには教師の真剣な教育実践と誠実な生活態度がその基盤である。

3 本校の教育目標・目指す生徒像

豊かな心を養い

学力 体力の向上を目指し

未来へはばたく人物を育成する

- 心身ともに健全で 自らを鍛え努力する人
- 進んで学び 社会のために尽くす人
- 認め合い、支え合う心優しい人

4 目指す学校像・教師像

全国学力・学習状況調査の生徒質問紙の結果をみると、「学校に行くのは楽しいと思いますか」「友達と協力するのは楽しいと思いますか」「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」という質問に対してとても肯定的にとらえている生徒が顕著に多い。これらから、学校が生徒たちにとってとても居心地のよい場所であり、「安心できる居心地のよい学校」が実践されていることが感じられる。

令和3年度より現行の学習指導要領が完全実施された。世界的な困難と向き合わなければなら

ない今、新学習指導要領の中で、「何を学ぶかではなく、何ができるようになるか」「これまで学んだことをどのように活用することができるか」などが問われており、まさに生徒が自ら考えて対応する力を育てるチャンスである。令和4、5年度での2年間、小平市の研究推進校の指定を受け「主体的に学習に取り組む生徒の育成」というテーマで取り組んできた研究の成果をいかしつつ、ICTを効果的に利活用し今後の授業改善につなげていく。

社会は、国際化、外国人労働者の受け入れ、人工知能などめまぐるしく変化をし続けている。生徒たちには、10年、20年先の時代を遅く切り開き、生き抜く力を身につけさせることが必要である。時代に振り回されることなく、人として大きく成長していくことを願い、お互いに協力をし、認め合い、やさしさや思いやりをもち、自己には厳しく自らを鍛え抜き、これからの社会にはばたく人物の育成を目指す。学校は、健康な心と体、そして学力を育てていくところではない。従って、本校では、以下の教育目標のもと、文武両道、バランスの取れた学校生活の中で、共に学び、共に取り組む、切磋琢磨する生徒像を目指していく。

5 経営の基本方針と本年度の重点

スローガン：「一人一人を大切に作る学校」

- ・生徒と教職員のウェルビーイングを最重要課題として取り組む
- ・未然防止を柱とした生活指導のきめ細やかな指導を充実させる
- ・特別な支援を必要とする生徒と家庭の理解を深めていく
- ・「主体的に学習に取り組む生徒の育成」に向けた授業改善を継続する
- ・社会に開かれた学校として地域と共にある教育活動を推進する

6 学校経営の具体的な方法

令和5年度より、コミュニティ・スクール（学校運営協議会を設置する学校）としてスタートしている。学校経営の様々な事柄について、「承認」を受けることで、地域や保護者のニーズに迅速に的確に対応していくことができる。また、学校だけでは解決できない諸課題や家庭、地域を取り組みことでより成果が期待される課題については、学校運営協議会と連携を図りながら、関係機関や地域住民とともに取り組み、解決していく学校経営を実践する。

今後は小平第八小学校（平成23年度よりコミュニティ・スクール）、小平第五小学校、花小金井小学校とともに小中連携型コミュニティ・スクールになるべく働きかけを行い、その実現に努力していく。小中連携型の学校経営協議会の在り方やその効果を検証し、関係小学校との連携を密に図ることで、花小金井南中学区の小・中学校が地域コミュニティの中心となり、地域住民や保護者が安心して子どもを任せることができる学校教育、9年間を見通した学校教育を提供していく。

	経営の基本方針	本年度の重点
教育活動	<p>(1) 人間尊重の教育を推進する。 【各教科等】 生命尊重・人権尊重教育を全教育活動の基本とする。</p>	<p>(1) 自他の尊重を重点課題とする。 【各教科等】 ・言語環境を整える。 (コミュニケーション・印刷物等) ・通常の学級と特別支援学級との交流と相互理解の推進をする。 ・共に学び合い自他を大切に環境作りをする。</p>
	<p>(2) 学習指導の充実を図る。 【各教科等】 ・基礎学力の定着 ・特別支援教育の視点から誰にでも分かる授業を展開する。 ・対話的、主体的な授業展開を実施 ・発問の出し方や体験的な活動等の工夫からより深い学びを目指していく。</p>	<p>(2) 計画・実行・検証・改善を実施する。 【各教科等】 ・わかりやすい授業を展開し、目指し学ぶ意欲を高め基礎的な内容の定着と個に応じた学力の向上を図る。 ・授業改善において協働学習を活用することにより学習意欲と学力向上を目指す。 ・授業改善推進プランに基づいて行う。 ・話し合い活動の充実を図り、表現力や聞く力等を育成する。ICTの活用による工夫・改善を行う。 ・家庭学習の定着を目指して指導を行う。</p>
	<p>【道徳】 ・指導法を工夫・改善し、自尊感情・自己肯定感を高める。 ・道徳の授業の充実。 ・評価方法の研修 【総合】 共通テーマを設定し、課題発見・課題解決能力を高め、生きる力を醸成する。</p>	<p>【道徳】 ・教材の研究と工夫を行う。 (生徒の自尊感情・自己肯定感を高める) ・研究の成果を活かして授業を充実させる。 ・評価について研修をする。 【総合】 ・共通テーマ…「自己の生き方を考える」 ・自己の生き方を考える・課題を発見し探求する力・学ぶことの楽しさ、発表力等を育成する。</p>
	<p>(3) 体験活動の充実を図る。 【特別活動】 ・よさや可能性に気づかせながら、社会性を育成する。 ・お互いに協力をして、認め合い、達成感を味わう。</p>	<p>(3) 生徒の一人一人の『よさ』に目を向ける。 【特別活動】 ・委員会・係活動、学校行事 ⇒「自主・自律性」や「集団や社会の一員としての自覚」を育成する。 ・委員会活動や部活動を活性化する。 ⇒生徒会や代表委員会を中心に連携した活動を計画的に取り組む。 ⇒「自己実現」の機会をできる限り多く与える。 ・生徒会朝礼の工夫・改善 ・花南ボランティア隊の推進</p>
	<p>(4) 個に応じた生活・進路指導を展開する。 【生活】 ・正義を理解し、前向きに生活できるように支援する。 ・先手の指導を心がけ、様々な課題を未然に指導する。 【進路】 ・「将来」を考えさせながら、確かな生き方を設計できるよう支援する。</p>	<p>(4) 指導状況・結果を学年・分掌内で評価する。 【生活】 ・コミュニケーションの基本である挨拶への指導をはじめ、日常の大切さを学校全体で取り組むことで、落ち着いた生活態度を養う。 ・受容・共感的な生徒指導に心がける。 ・組織的な対応（SCや関係機関、保護者との行動連携） 【進路】 ・キャリア教育の系統的で計画的な実施。</p>
学習・生活環境	<p>(1) 基礎力の確実な定着や思考力を高める環境を作る。 【読書】 ・読書活動を推進する。</p>	<p>(1) 読書環境を整備する。 【読書】 ・読書マラソンの継続と朝読書を充実させる。 ・図書支援員、図書ボランティアの有効な活用をする。</p>
	<p>(2) 落ち着いた生活空間を作る。 【美化】 ・環境美化に努める。</p>	<p>(2) 校舎内外の清潔感を高める。 【美化】 ・委員会を中心とした環境美化の取組を行っていく。 ・修繕箇所への迅速な対応 ・花植えボランティアの活用による花壇等の整備</p>

	<p>(3) 支援の必要な生徒及び家庭への支援体制を確立する。</p> <p>【環境】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別支援学級設置校としてのよさを最大限に発揮する。 ・特支教育・適応指導・教育相談の連携機能を強化する。 ・SC、SSW、SLの有効活用 ・サポート教室の充実 	<p>(3) 組織的な活動。</p> <p>【環境】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理解教育や交流及び共同学習、複籍制度の充実 ・特別支援教育推進委員会を中心とした支援体制 <ul style="list-style-type: none"> ○学年間の調整や支援。 ○保護者の相談窓口として機能させる。 ・SC、SSW、SLを有効活用し、支援の必要な生徒や家庭への早期対応を図る。 ・進路指導部を中心とした支援と計画の立案等を行う。
外部との連携	<p>(1) 外部人材の有効活用。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修会等での活用 ・大学生ボランティア等の学習支援活用 	<p>(1) 外部人材を発掘し、活用する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修において外部人材等を活用し資質の向上を図る。 ・学生を活用した学習の支援活動を行う。
	<p>(2) サポートチームの活用を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関係機関との行動連携（情報の共有・役割の明確化）により、健全育成に取り組む。 	<p>(2) 問題行動等に組織的に対応していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・深刻な非行・いじめ・不登校等に対して必要に応じて関係機関と連携をとり、解決にあたる。
	<p>(3) 防災体制の確立を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実効性のある防災計画を策定する。 	<p>(3) 防災への意識をより高めていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練の工夫・防災教育を通して、防災意識を高めていく。
	<p>(4) 地域・保護者の力の積極的な活用を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・放課後学習教室の充実 ・検定試験の実施 ・授業や体験活動へのサポート 	<p>(4) 生徒の活動や自己肯定感を高める取組を地域と共に実施していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまで教員が対応していた取組を地域や保護者の力を活用して実践し、生徒の自己肯定感を高めさせる取組をめざす。
その他	<p>(1) 校内研究の充実を図る。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①「主体的に学習に取り組む生徒の育成」に向けて学習者用端末の活用や小グループによる学び合い活動等を授業に取り入れ、授業改善に取り組む ②ICTを利活用した、指導力等の向上に取り組む。 ③特別支援教育の理解 ④OJT等を活用した人材育成。 	<p>(1) 授業改善を柱とした研修の充実</p> <ol style="list-style-type: none"> ①進路指導部研修担当を中心として授業公開を実施する。主体的に学習に取り組むという視点を教師が共有し、自身の授業改善に取り組む。 ②計画的な校内研究を行い、ICTスキルを向上させ、ICTとのベストミックスを目指す。 ③生徒理解・指導方法・指導力の向上を図る。 ④主幹・主任教諭等による若手の育成をする。
	<p>(2) 学校運営を円滑に行っていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「報告・連絡・相談」体制を徹底する。 	<p>(2) 組織的対応の徹底を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・組織的対応の定着を目指す。 担当者 ⇨主任⇨主幹⇨副校長⇨校長
	<p>(3) 学校情報の公開を基本とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校情報を発信していくとともに、学校へのニーズを的確にキャッチしていく。 	<p>(3) 学校・学年だより・HP等を活用する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・HPを活用し、学校の様子を伝える。
	<p>(4) 道徳教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他者尊重の心を育てる。 	<p>(4) 教材や指導計画の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健全な自尊感情を目指す。
	<p>(5) 小中の連携の推進。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入学後のスムーズな適応。 	<p>(5) 小中の連携による発達段階に合わせた授業改善。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科等研や小中連携を利用し課題の作成や共通意識をもつことで授業改善等にいかす。
	<p>(6) 危機管理の徹底を図る。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①未然防止及び生徒の安全確保に努める。 ②説明責任・結果責任を果たす体制を確立していく。 	<p>(6) 事故防止に向けた取り組み。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①・日常的に施設・設備の点検やマニュアルの見直し行う。（事故発生時には迅速・的確に） ・情報モラルにおける指導の充実 ②週の指導計画に事故の未然防止のための安全指導について記載し、起こった事故については事実の記録を行う。
	<p>(7) 学校（公務員）としての信頼を高めていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・法令（服務規律等）を遵守し、学校への信頼を一層高めていく。 ・体罰や不適切な指導の根絶への意識向上。 	<p>(7) 服務に対する意識を高めていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・服務事故に関する研修を適宜に実施する。 ・ともに生徒を育てるという視点で、保護者と信頼関係を築いていく。

